大阪天満宮所蔵「宝物･文化財」紹介ページ

第１号

天神画像（御神影）一覧

令和7年（2025）2月25日公開

ここには、当宮所蔵の天神画像＝菅原道真公の姿 ― 束帯天神（坐像･立像）、渡唐天神、菅公像、その他も含めて ― **79点の「画像一覧」･「掲載品目録」**を下記の目次の順に掲載します。

扉･目次 ……p. 1
凡例注記……p. 2
画像一覧……p. 3―7
　画像一覧（番号なし）……p. 4―5
　画像一覧（番号付き）……p. 6―7
掲載品目録……p. 8―12
解説他……p. 13―21
参考資料……p. 22―24
　画像一覧（初稿） ……p. 23―24

画像一覧と総目録 凡例･注記 ＝分類と配列順は図様の特徴を基準に

◆「天神画像（御神影）一覧」の凡例：

- 次ページ以降には、「天神画像（御神影）一覧」として、現在把握している当宮所蔵の天神画像79点を掲載しました。
- 掲載にあたっての「分類」と「配列順」については、各画像の「図様」の特徴と違い（⇒坐像･立像の別、束帯･渡唐、その他の別、顔身体の向きの別、表情の相違、笏の持ち方の相違、装束の種類、座の種類、背景の松梅樹、社殿･幔幕などの取り合わせ、といった図像･図様の特徴と違い）を分類の基準としてグループ分けをしたうえで、「絵画様式の系統（流派･作者）」「制作年代」などを勘案して配列しました。
- 画像一覧（番号付き）に付す数字は ■ 今回の配列番号、□ 平成10年宝物リスト番号、□ 寄託先、□ 社報掲載号をそれぞれ示します。

◆「掲載品目録」（＝p.8－12 棒目録）についての注記：

- 「平成10年リスト番号」は、平成初期の宝物悉皆調査時作成の宝物リストの掲載番号（現在までの当宮の所蔵品基礎データとなっているためここにも掲載）を示します。

  同項の「番外画像〇」は、同リスト未掲載の天神画像に今回付した番号です。
- 「社報掲載」は、当該画像の当宮社報「てんまてんじん」への掲載号を示します。

  松浦清氏（現大阪工業大学教授）による詳細な解説がありますのでご参照ください。

（社報は47号～最新号まで HPに掲載 https://osakatemmangu.or.jp/magazine）

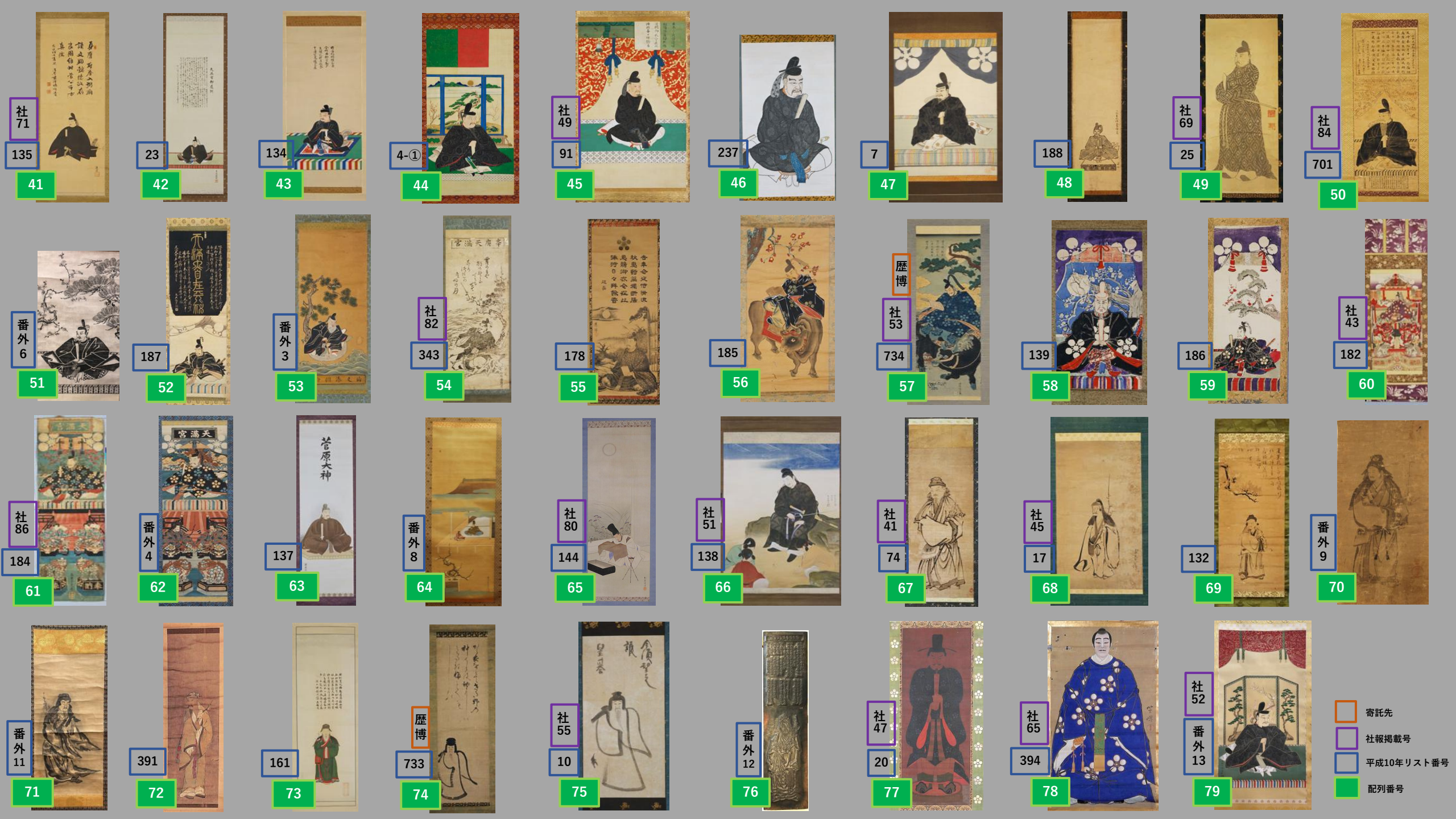
画像一覧

天神画像一覧（番号なし）

天満宮
菅原大神

天神画像一覧（番号付き）

社 73
番外 5
1
歴博
社 19・31
729
2
社 37
86
3
歴博
社 39
732
4
歴博
社 33
728
5
歴博
社 63
726
6
80
7
165
8
番外 1
9
19
10
13
11
歴博
社 61
730
12
社 75
番外 7
13
85
14
11
15
92
16
24
17
16
18
番外 2
19
169
20
歴博
727
21
590
22
130
23
133
24
歴博
社 35
725
25
27
26
136
27
歴博
731
28
社 67
12
29
社 59
14
30
番外 10
31
22
32
社 57
15
33
21
34
192
35
歴博
新春 社 令和 3
724
36
18
37
90
38
社 77
9
39
158
40


社 71
135
41
23
42
134
43
4-①
44
社 49
91
45
237
46
7
47
188
48
社 69
25
49
社 84
701
50
番外 6
51
187
52
番外 3
53
社 82
343
54
178
55
185
56
歴博
社 53
734
57
139
58
186
59
社 43
182
60
社 86
184
61
天満宮
番外 4
62
菅原大神
137
63
番外 8
64
社 80
144
65
社 51
138
66
社 41
74
67
社 45
17
68
132
69
番外 9
70
番外 11
71
391
72
161
73
歴博
733
74
社 55
10
75
番外 12
76
社 47
20
77
社 65
394
78
社 52
番外 13
79
寄託先
社報掲載号
平成10年リスト番号
配列番号

掲載品目録

「天神画像（御神影）一覧」 掲載品目録

令和７年(2025)2月1日（鈴木幸人作成）

配列番号	（平成10年リスト番号）	名称	作者	制作年代	員数	材質	法量（cm）	社報掲載
1	（番外画像5）	束帯天神像（北野社根本御影型）		室町時代	１幅	絹本着色	71.2×30.1	73号
2	（729）	束帯天神立像（雲中影向・伝玉楽）	「右都御史之印」（伝玉楽）	室町時代	１幅	紙本着色	72.0×36.7	19号 31号
3	（86）	束帯天神立像（梅枝持立像）		桃山時代	１幅	絹本着色	112.8×49.6	37号
4	（732）	束帯天神像（梅林坐像・雪舟秋月型）	落款「東海秋月図書」	室町時代	１幅	紙本墨画淡彩	86.1×41.7	39号
5	（728）	束帯天神像（色紙「菅贈大相閤」）		室町時代	１幅	絹本着色	100.1×40.7	33号
6	（726）	束帯天神像（伝土佐広周・色紙「昨為北闕」）	伝土佐広周	桃山～江戸	１幅	絹本着色	94.3×39.5	63号
7	（80）	束帯天神像（色紙「離家三四月」）		江戸時代	１幅	絹本着色	88.6×42.6	
8	（165）	束帯天神像（法眼禅隆・賛「昨為北闕」）	落款「法眼禅隆」	江戸時代	１幅	紙本墨画	63.3×28.0	
9	（番外画像１）	束帯天神像（孤月）	裏書「弧月画」	江戸時代	１幅	紙本着色	78.5×45.5	
10	（19）	束帯天神像（白髪髭）		江戸時代	１幅	紙本着色	87.0×55.1	
11	（13）	束帯天神像（古土佐・愚堂賛）		江戸時代	１幅	絹本着色	85.4×39.5	
12	（730）	束帯天神像（松梅白鷺・色紙「松生一夜」）		桃山時代	１幅	絹本着色	100.4×39.6	61号
13	（番外画像7）	束帯天神像（墨松、伝狩野元信）	伝狩野元信	室町時代	１幅	紙本着色	79.9×38.6	75号
14	（85）	束帯天神像（松白梅、方印２顆）		江戸時代	１幅	紙本着色	87.9×40.5	
15	（11）	束帯天神像（松紅梅、伝土佐光茂）	伝土佐光茂	江戸時代	１幅	紙本着色	108.6×56.9	
16	（92）	束帯天神像（松白梅畳茵、方印２顆）		江戸時代	１幅	紙本着色	84.5×39.1	
17	（24）	束帯天神像（松白梅、円印）		江戸時代	１幅	紙本着色	83.3×32.4	
18	（16）	束帯天神像（松紅梅畳茵、渡辺廣輝）	渡辺廣輝	江戸時代	１幅	絹本着色	56.8×23.7	

19	（番外画像2）	束帯天神像（松梅、白髪白装束）		江戸時代	1幅	紙本着色	86.8×29.3	
20	（169）	束帯天神像（松梅、墨画淡彩）		江戸時代	1幅	紙本墨画淡彩	52.0×34.1	
21	（727）	束帯天神像（松梅、狩野探幽画富春草賛）	伝狩野探幽	江戸時代	1幅	絹本着色	109.1×50.4	
22	（590）	押絵束帯天神像（押絵・松梅）		江戸時代	1幅	扉付貼絵	52.8×31.7	
23	（130）	束帯天神像（社殿松梅背屏）		室町時代	1幅	紙本着色	84.2×35.8	
24	（133）	束帯天神像（白髪、色紙、山水松梅屏風）		江戸時代	1幅	絹本着色	80.7×32.1	
25	（725）	束帯天神像（種字、竹梅屏風）		室町末～江戸初	1幅	絹本着色	81.3×39.2	35号
26	（27）	束帯天神像（法華経、松紅梅）		江戸時代	1幅	画：紙本着色 書：紺紙金泥書	77.2×30.6	
27	（136）	束帯天神像（牡丹唐草敷物）		桃山時代	1幅	絹本着色	65.9×36.8	
28	（731）	束帯天神像（円座）		室町時代	1幅	絹本着色	67.7×38.0	
29	（12）	束帯天神像（綱敷）		室町末～江戸初	1幅	紙本墨画淡彩	37.7×29.3	67号
30	（14）	束帯天神像（綱敷白髪・色紙「心たに」）		室町末～江戸初	1幅	紙本着色	86.1×37.1	59号
31	（番外画像10）	束帯天神像（円座、左向）		江戸時代	1幅	絹本着色	72.8×33.4	
32	（22）	束帯天神像（雪舟型）	山泉	昭和3年（1928）	1幅	紙本墨画	108.0×40.3	
33	（15）	束帯天神像（道明寺型・大岡春卜）	大岡春卜	宝暦9年（1759）	1幅	絹本着色	104.7×36.1	57号
34	（21）	束帯天神像（道明寺型、上畳）		江戸時代	1幅	紙本着色	112.2×57.0	
35	（192）	束帯天神像（道明寺型・一純落款）	落款「一純謹拝写」	近代	1幅	絹本着色	54.4×57.4	
36	（724）	束帯天神像（光格天皇下賜・土佐光孚）	土佐光孚	天保11年（1840）	1幅	絹本着色	116.3×54.9	令和3新春／55号
37	（18）	束帯天神像（田能村直入）	田能村直入	明治20年（1887）	1幅	絹本着色	97.8×37.4	
38	（90）	束帯天神像（菅原長言）		明治41年（1908）	1幅	絹本着色	126.8×55.3	
39	（9）	束帯天神像（森二鳳）	森二鳳	明治24年（1891）	1幅	絹本墨画淡彩	105.4×41.4	77号

40	(158)	束帯天神像（津守國福）		幕末	1幅	絹本着色	84.4×32.1	
41	(135)	束帯天神像（津端道彦画・藤澤南岳賛）	津端道彦	大正7年（1918）	1幅	絹本着色	110.2×41.9	71号
42	(23)	束帯天神像（天満宮御遺訓・南嶺画）	落款「南嶺謹写」	大正3年（1914）	1幅	絹本着色	104.0×35.5	
43	(134)	束帯天神像（上畳茵座・賛「昨為北闕」）		近代	1幅	紙本着色	96.9×43.2	
44	(4－①)	束帯天神像（色紙枠・山水松梅屏風）		明治27年（1894）	1幅	絹本着色	84.6×40.8	
45	(91)	束帯天神像（萎装束・上田耕冲）	上田耕冲	明治35年（1902）	1幅	絹本着色	140.3×85.0	49号
46	(237)	束帯天神像（細字絵・南無天満大自在威徳）	華光	大正15年（1925）	1幅	紙本墨画淡彩	152.5×94.2	
47	(7)	束帯天神像（細字絵・経文祝詞）	和泉金兵衛	昭和20年（1945）	1幅	絹本着色	84.6×57.8	
48	(188)	束帯天神像（細字絵・般若心経）	圓水	近代	1幅	紙本墨画	66.7×19.1	
49	(25)	束帯天神像（細字絵・天満大自在、立像）	猪飼謙二	昭和9年（1934）	1幅	絹本墨画	100.9×39.9	69号
50	(701)	束帯天神像（版画光格天皇下賜像写, 融通念仏）		慶応元年（1865）	1幅	紙本版画	104.9×37.9	84号
51	(番外画像6)	束帯天神像（版画道明寺土師神社）		明治37年（1904）	1幅	紙本版画	56.4×30.2	
52	(187)	束帯天神像（神号菅公略歴付）		近代	1幅	紙本版画	73.2×25.2	
53	(番外画像3)	天神像（版画綱敷「袖之湊綱輪寺」）		江戸時代	1幅	版画手彩色	62.9×27.1	
54	(343)	天神像（版画配所浜辺「宰府天満宮」）	松寿斎	江戸時代	1幅	紙本版画	37.6×14.7	82号
55	(178)	天神像（版画配所の月「去年今夜侍清涼」）	応挙落款	近代	1幅	紙本版画	101.6×39.4	
56	(185)	天神像（騎牛天神）		江戸時代	1幅	紙本着色	89.3×43.0	
57	(734)	天神像（版画騎牛天神、芳虎）	歌川芳虎	幕末明治初期	1幅	紙本版画	71.5×24.2	53号
58	(139)	束帯天神像（版画、社殿梅月正面向）		近代	1幅	紙本版画	80.3×41.0	
59	(186)	束帯天神像（版画、社殿松紅梅）		近代	1幅	紙本版画	73.7×30.2	
60	(182)	束帯天神像（版画、社殿随身狛犬）	基春落款	近代	1幅	紙本版画	35.7×18.7	43号

61	(184)	束帯天神像（版画、社殿随身狛犬）	歌川芳虎	幕末明治初期	1幅	紙本版画	68.7×21.2	86号
62	（番外画像４）	束帯天神像（版画、社殿随身狛犬）		近代	1幅	紙本版画	71.7×24.1	
63	(137)	束帯天神（印刷、神号「菅原大神」）	菅原信稚書	近代	1幅	紙本印刷	110.8×33.0	
64	（番外画像8）	幼少菅公図（伝土佐光孚）	土佐光孚落款	江戸時代	1幅	絹本着色	108.7×39.2	
65	(144)	菅公恩賜御衣図（松春）	落款「松春謹写」	昭和17年（1942）	1幅	絹本着色	111.4×41.2	80号
66	(138)	菅公像（童子に文字を教える図）	落款「邦年謹写」	昭和3年（1928）	1幅	絹本着色	98.0×78.3	51号
67	(74)	渡唐天神像（伝狩野元信）	元信壺印	室町時代	1幅	紙本墨画	91.3×31.6	41号
68	(17)	渡唐天神像（海北友松）	落款「友松図」	江戸時代	1幅	紙本墨画	53.2×30.4	45号
69	(132)	渡唐天神像（背景松枝、賛「蓬莱」）		江戸時代	1幅	紙本墨画	57.0×23.4	
70	（番外画像9）	渡唐天神像（墨画、めくり）		江戸時代	めくり1枚	紙本墨画	52.0×22.3	
71	（番外画像11）	渡唐天神像（墨画、右手梅枝）		幕末明治	1幅	紙本墨画	52.1×25.7	
72	(391)	渡唐天神像（着色、左手梅枝）		江戸時代	1幅	紙本着色	93.5×27.8	
73	(161)	渡唐天神像（着色版画、伏見菅原神社印）		近代	1幅	紙本版画	78.9×28.5	
74	(733)	文字絵渡唐天神像（近衛信尹「から衣」）	近衛信尹	江戸時代	1幅	紙本墨画	88.6×27.0	
75	(10)	文字絵渡唐天神像（近衛信尹「今須望天」）	近衛信尹	江戸時代	1幅	紙本墨画	74.9×36.4	55号
76	（番外画像12）	渡唐天神像 版木	笹屋八良兵衛 ／判木師喜三郎	明治時代	1枚	木製	64.3×16.0×2.7	
77	(20)	三季天神像	土佐経隆	江戸時代	1幅	絹本着色	133.7×52.1	47号
78	(394)	菅丞相像（役者絵）	落款「芳峰」	明治時代	1幅	絹本着色	99.8×57.2	65号
79	（番外画像13）	束帯天神像（松梅背屏、法眼兆揚）	山本兆揚	平成19年（2007）	1幅	紙本著色	97.3×50.2	52号

解説

解説（１）　天神画像・御神影　概説

- ここでの「**天神画像**」は、**天満宮の祭神としての菅原道真公の姿を表した絵画**をいいます。天満宮では「**御神影**」として大切に扱われてきました。
- その図様は、**生前の道真公の公卿としての姿**、公卿の正装である「**束帯**」**姿の**「**坐像**」を基本として成立したと考えられます。

- その中にもいくつかのバリエーションが知られており、たとえば、顔貌表現＝表情でいえば、当初はおもに御霊信仰にもとづく**憤怒の表情（怒り天神）**が主で、**神格の変遷**（文芸・学問の神へ）に伴って温和で端正な表情の天神像も現れるようになります。
- 他のモチーフ、上畳や褥などの敷物、背景の松や梅の取り合わせにも**様々なバリエーション**が認められます。

- 天神信仰の拡がりのなかで、「**束帯天神**」**の坐像や立像**（立像はおもに天神の化現・影向の姿とされる）にくわえて、禅宗の説話とかかわる「**渡唐天神**」、左遷途上の伝承にもとづく「**綱敷天神**」、大宰府配所での場面（恩賜御衣や天拝山）等、様々な「天神像」があります。また近代以降には道真公生前のエピソードを描いた「**菅公像**」とも呼ぶべき作例も描かれました。

解説（２）　天神縁起と「絵像」「形像」

- 天神信仰では、その早い時期から、**「天神の姿」**（画像や彫像＝偶像）**をまつること**が行われていた、と考えられます。
- そうしたあり方の証左および理由、注目すべきことのひとつとして、**「天神縁起（北野天神縁起絵巻）」**の詞書に次のような文言があります。（天神縁起は、鎌倉時代はじめまでに集成･成立した天神信仰の由来と霊験を記す縁起文。絵画を伴う絵巻物として多数制作された。）

「… 故に **本地絵像にかきあらはし**まいらせて 結縁の諸人の随喜のこころをもよをさば…」

（北野天神縁起絵巻・承久本より）

「… 但人 信心ありて **わが形像をつくり わが名号をとなへて** ねんごろに 祈こふ事あるならば…」

（北野天神縁起絵巻・杉谷本より）

＊解釈のむずしい点もあるのですが、**姿を「絵像」に描く**、あるいは、**「形像」を造り、「名号」を唱えて**祈願することが明確に記されています。天神画像や彫像、また名号の由来や根源を考えるための重要な文言としてご紹介しておきます。

解説（３）　おもな天神画像の種類

- **束帯天神**：天神画像の基本型
  公卿の正装である束帯姿の坐像、冠をかぶり、笏をもつ
- **束帯天神 立像**（坐像でなく立っている姿）
  おもに影向（＝神仏の化現）の様子を表わすと考えらる
- **怒り天神**：御霊信仰に由来の憤怒の表情が天神像の本来
  ただし神格の変遷に伴い穏やかな表情の天神像・菅公像も
  （＝文芸・学問の神としての姿と考えられる）
- **綱敷（つなしき）天神**：大宰府左遷の途上、上陸時の敷物に 船の纜（ともづな）
  を用いた説話にもとづく図像、怒り天神の憤怒の表情
- **渡唐（とと う）天神**：天神が中国（南宋）に渡り、当地の禅の名僧・無準師範
  （ぶじゅんしばん）に禅を学んだという、室町時代の禅僧の間に
  流行した説話にもとづく、道服姿の天神像（右図）

解説（４）　当宮の天神画像、その特色
～80点をかぞえ、バリエーションも豊富

- 当宮に伝来･所蔵の**天神画像は現在「80点」を確認**しております。（令和7年2月1日現在）
- いずれも当宮の歴史の中で、折々に寄進･奉納され、収蔵してきた天神像、菅公像であり、ひとつひとつ、**それぞれがかけがえのない「天神様･菅公のお姿」**です。
- 一方、これほどの数に上る画像が揃っていますので、今回のように**一堂にすることによって、「天神画像のバリエーションの多様さ」**ひいては「天神信仰の拡がり」を見ること知ることができる点でも稀有で貴重なものといえます。
- 今回、**「画像一覧」の形式**での画像（＝写真図版）の**分類･配列**にこだわったのは、**当宮所蔵の天神画像のすべて**のご紹介はもとよりそこに認められる**天神画像の多様性を一見の内に**、現代風にならば**「可視化」**したいと考えたからです。
- 各画像の個別解説は、後日とさせていただきますが、すでに多くの天神画像･菅公像については、前述の松浦清氏による丁寧かつ的確な解説が社報に掲載されていますので、ぜひともご参照ください。

解説（４）つづき

- 当宮には、**室町時代から近世、近代、戦後に至る**、**様々な天神画像**が伝来しています。
- 今回の紹介ではなによりも、**ｐ３－６に掲示した「天神画像一覧」**を眺めていただきたいのですが、そこに認められる当宮の**天神画像の傾向**、いくつかの**特徴的な天神画像**を記しておきます。
- **「画像一覧」および「掲載品目録」**を一見一瞥してわかるように、**「束帯坐像」が圧倒的に多い**。その中でも、画面上部に**色紙型**のあるもの、**背屏**を据えるもの、**社殿**形式に描くもの、**松梅**を配するものが多いうえに、そのバリエーションも多数、 その他の景物、種字や名号を配するものもある。また所謂「**北野根本御影型**」も、「**道明寺神像型**」も複数ある。一方「**綱敷天神」はそれほど多くない**。「**束帯立像**」も類例の多い**影向型**にくわえて、**梅枝持型**など他には類の少ない図像もある。また**文字絵（経文や名号を連ねて描いた像）**もいくつかあります。「**渡唐天神**」は多くはないけれど、**着色系･水墨系･文字絵系**と揃う。**浮世絵版画や芝居絵系**もあり、当宮に所縁の深い**近代画家･上田耕冲、津端道彦他**の束帯天神、生前の姿を題材にする「**菅公像**」というべき幕末から近代の作例も散見します。
- これらの作例は、**土佐派や狩野派の正系絵師、近代画家**の作から、絵画に嗜みのある**素人**の文字絵の作画、**神社が頒布配布したり、一般販売された版画**に及びますので、それぞれの「価値」（もちろん「価値」は「文脈」によって異なりますから一概に決定することは無意味ですが）**その画質＝絵画としての出来映えや美術史上の通例の価値には自ずと高低がある**のも事実です。
- またご存じのとおり、当宮は天保年間「**大塩の乱」に被災**し、社殿はもとより数多の宝物･文書･史料その他が**焼失**した中に、**後水尾天皇下賜の天神画像**も失われたようです。その後、関係者の尽力で、**光格天皇下賜の束帯天神画像**が、当宮にもたらされたのは周知のことですが、その記録文書や絵、移送に用いた「唐櫃」も大切に伝わっております。
- かかる由緒ある画像から、一般頒布の浮世絵や版画まで。この実際の多様性と、それを尊重し推進しようとする姿勢が、次項の「大阪市指定文化財・画像史料一括」としての評価につながったと思われます。

解説（５）
大阪市指定文化財「天神信仰関係画像史料一括（77点）」

当宮の天神画像･縁起絵は、大阪市指定文化財（令和3年度･有形文化財･歴史資料）に指定されています。指定名称は「天神信仰関係画像史料一括（77点）」です。

この「指定」についての詳細は、**大阪市の当該ホームページ**

https://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000571261.html

および、当宮**社報てんまてんじんの紹介記事（令和5年新春号外）**

https://osakatemmangu.or.jp/wp/wp-content/uploads/

2022/12/933afd22ce2c6b65e981381e8497e80e.pdf　をご参照ください。

＊上記の記事を見ていただければ現状では十分なのですが、本ページ編集担当からもひとこと申し添えます。この**「画像史料一括」とする枠組み**は、**画像の質や由緒によるランク付けをしないことで、天神画像＝御神影の、文化財としての、宝物としてのあり方を象徴**しますが、しかし、耳障りの良さ以上に深刻な問題を孕むとも見えます。**絵画の質の高低、寄進者の地位の上下などが歴然と存在する一方で、奉納いただいた収蔵された菅公の姿＝御神影には決して優劣をつけるものでない、という思想**自体が評価の対象となるからです。このことは**現代の私たちの、**また**「信仰と学術の間」にある立場からも、避けて通れぬ検討課題**、その重要な観点になると思われるのです。

＊なおこの指定一件については、まことに遺憾ながら、令和6年にいたってデータや内容に不備･不十分が認められ、現在、修正に向けて関係者一同鋭意努力中である旨申し添えます。追って改めて、責任あるご報告のできることをご期待ください。

（附けたり）

新発見の「束帯天神画像」について（右写真）

・令和6年（2024）12月19日、収蔵庫調査時、
　薄葉紙に包まれた状態で発見。**著しい破損（右写真参照）**
　平成期の悉皆調査では調査対象となっていない（当時未収蔵？）
　その他当宮への収蔵・伝来の事情など現時点では未詳

・制作年代：**15-16世紀**

・材質：絹本着色
・法量：本紙77.5×41.5cm
　　色紙型（縦）20.3（横）右14.0、中14.5、左13.2cm

・賛文あり（現在調査解読中）

・軸八双裏の墨書銘　→天文9年（1540）の修理銘がある
　「天神　天文九年庚子二月廿五日修覆之
　　今里妙法寺奥坊良誉」

⇒ 本画像は、絵画様式から16世紀以前の制作と判断されるが、墨書銘から16世紀半ばに修理がなされたとすれば、その制作は、15世紀に遡る可能性が高まり、当宮に限らず現存の天神画像の中でも最古級の作例に位置づけられるきわめて貴重な天神画像となる。（現在80番目の所蔵天神画像として、修復・保存・活用の方途を検討しております）

エピローグ　～ひとまず、いまいちど、「天神画像 一覧」の「壮観」を

実のところ、前述しました**文化財指定にかかわる案件（解説５）、その思わざる出来**が、私どもに**真摯な反省**を促すこととなり、今回紹介の**「天神画像 一覧」作成の直接のきっかけ**となりました。ひいては、**この「宝物･文化財紹介ページ」立案**への、つまり所蔵の宝物･文化財の全般についてもこれまでの不備･不十分を洗い出し、正確な把握と確実な管理のための企画、**それへの強い動機**となったことは、ご想像どおり、ご賢察いただけるものと存じます。

また、**新出画像のトピック（解説･附けたり）**でもお分かりになるように、当宮にはまだまだ把握できていない**宝物･文化財が、社殿のどこか、境内のどこかに眠っている**ようです。これからますますその把握に努めてまいります。

上記の事情もあり、編集者としましては、今回は何よりも**「天神画像 一覧」の作成（＝所蔵画像の確認と分類と配列）に重点**をおきました。もとより十分とは言いがたいですが、編集担当はその作成のはじめから（こちらから言うのは憚られますが、あえて申しますと）**「天神画像 一覧」に「壮観」を感じて**おりました。それは当宮のこれまでの歩みに裏打ちされ、これからの行くべき道を指し示すものであるからだろうとも思っております。

読者諸賢には、かさねてのご賢察のうえ、いまいちど、**所蔵天神画像を一堂にするはじめての試み＝「天神画像 一覧」（本ページp３－7）を眺めてくださり、そこに壮観を**感じていただけるならば、編集者の思いはそこに尽き、本ページの趣向もそのときはじめて活きる、と信じるところです。

（本ページ 編集担当：鈴木幸人、宗石真由美）

参考資料

以下に参考資料として本ページ「**天神画像一覧**」**のもと**となった「**天神画像一覧（初稿）**」を掲載します。前述の文化財指定の案件にかかわる確認作業の中で、編集担当が令和6年8月のはじめに作成したものです。この「初稿」に欠落していた画像を「追加」し、先述のように「分類・配列」を修正したのが本ページでご覧いただいた「**天神画像一覧**」です。初稿段階ということで、資料写真データをそのままに使っておりますので、編集作業をへて整理された統一感より、強い存在感やある種の生々しさ＝リアリティを感じるのではないでしょうか。実のところ、編集担当もこの初稿作成をつうじて、この「**画像一覧**」**という形式のもっているリアリティ**にこそ魅了されたことを、この際正直に記しておきたいと思います。

天神画像一覧（初稿・令和6年8月版）

菅原大神
天満宮